

原田雪松議員による 狂犬病予防法の議員立法その後書

日本獣医生命科学大学

池本 卯典¹ 佐々木 典康² 四宮 義和³ 清水 一政⁴

1. 海人族として誕生

原田雪松 後の衆議院議員は、天草に生まれた海人族である。海人族とは戯れ言葉ではない。天草住人の代名詞といえよう。原田雪松議員は、今を去る125年前の明治21年(1888)5月2日、現・熊本県天草市楠浦町に生まれた。生家の原田家は天草の名家で豪農、裕福な家庭に育っている。

天草は四方を蒼い海で囲む大小120の島を集めた諸島である。昭和41年(1966)に海人族の悲願であった天草5橋と天草パールラインの完成により、九州と陸続きとなり、天草の文明と産業を促進した。海人族の人口約13万人、島の西海岸の自然はまさに絶景、大江天主堂をはじめ、隠れキリシタンの歴史、南蛮文化の遺跡も多い。近年は日本最大級の恐竜化石の発見など話題の島でもあり、多数の観光客を集めている。¹⁾

2. 日本獣医学校に学ぶ

原田雪松議員は、日本獣医学校獣医学科を卒業した。同窓会名簿によると、大正2年(1913)同期生41名と共に巣立っている。²⁾ 文京区音羽の名利護国寺の一隅を借りて開設した私立獣医学校は、2度の挫折を経て目黒区下目黒に、明治44年(1911)3月に私立日本獣医学校として復活した。校長には陸軍獣医界の元老深谷周三博士が就任されたが、ご病気により在職1年で退職された。原田雪松議員の卒業した大正2年には、西川勝蔵氏が校長に就任している、明治45年(1912)7月30日、明治天皇は崩御された。同日大正天皇が踐祚、元号も大正に替わった。従って、大正元年は8月から12月の5カ月と短い。³⁾

日本獣医学校学則第1条によると、本科の修学年数を3年と定めている。しかし、第1期生は明治45年3月に卒業し、在学期間は僅か1年間。2期生は大正2年

IKEMOTO Shigenori, SASAKI Noriyasu, SHINOMIYA Yoshikazu and SHIMIZU Kazumasa : A Postscript to a Rabies Prevention Law of the Legislation by HARADA Yukimatu, Member of the House of Representatives.

1. 連絡先：日本獣医生命科学大学 池本卯典180-8602 東京都武蔵野市境南町1-7-1 TEL 0422-31-4151(代) (2016年8月31日受付・2016年9月10日受理)

に卒業しており、在学期間は2年間。共に学則に定める3年間に満たない。²⁾ 原田雪松議員は卒業当時25才であり晩学といえよう。当時の獣医学教育史を渉獵すると、熊本県には県立阿蘇農学校で獣医科目の教育を行っている。隣県の福岡県朝倉郡甘木町には、護国寺に創設された日本最初の私立獣医学校第1期生である藤田(梅野)信吉博士によって獣医開業試験を見据えて開設した甘木獣医学校があった。いずれも乙種農学校程度と推定される。それに比較し日本獣医学校は、甲種農学校程度の獣医学校として設置申請を行っている。3年間のカリキュラムと担当教員のプロフィールをみると、当時開設されていた東京大学農学部実科の獣医学教育、盛岡高等農林学校獣医学科の獣医学教育に比較して遜色はない。当推量ではあるが、1期生や2期生の多くは、すでに乙種農学校等で獣医科目の履修を済ませており、私立日本獣医学校では専門学校程度の獣医学教育を補習し、1年乃至2年間修学して試験に合格すれば卒業を認定したのではなかろうか。⁴⁾

3. 先達は2人の賢者

原田雪松議員の人生哲学、行動規範を追跡すると、2人の先哲による強い影響力が伺える。先ず宮崎定夫氏を挙げたい。宮崎氏は天草御領村生まれの海人族であるが、^{ただ}従者ではない。長じて東京美術学校(現・東京芸術大学)に学んだ画家でもある。しかし、その生涯は全く異色。郷里である天草御領村村長、天草畜産組合長、熊本県会議員等の公職を歴任した名士であり、地域の政治と行政の先覚者であった。原田雪松議員の宮崎定夫氏に対する思慕は尋常を超えて厚い。ご自身の戸籍を宮崎定夫氏と同じ地区の旧御領村に移し転居していることでも頷ける。原田雪松議員の経歴や行動は、まさに宮崎定夫氏の背を追っているといって過言ではない。⁵⁾

梅野信吉博士と原田雪松議員の関係も終生続いている。梅野信吉博士は、原田雪松議員が日本獣医学校の生徒時代、創設者として名を連ねると同時に、教育も担当していた。当時、北里研究所飼育部長、研究部獣疫課長等の経歴から推定すると、家畜細菌学・疫学・衛生学等を論講されていたと推察。⁴⁾ 原田雪松議員は、日本獣医学校卒業と同時に結婚している。媒酌は恩師の梅野信吉博士であり、君子夫人は生粋の東京育ち麗人にして伶俐であり、商才に長け内助の誉れは高かった。大正15年(1926)には一人娘潤子さんの誕生を祝っておられる。⁵⁾

4. 菊花と赤紫の議員バッジ

原田雪松氏は昭和24年(1949)衆議院議員として当選し、議員バッジを胸に着

け、永田町の人となった。すでに天草では御領村村長、熊本県議会議員、熊本県農業及び畜産関係諸団体の会長職を歴任している。地方政治家として令名は高く、人望も厚かった。衆議院議員に当選して役職はさらに増え、熊本県獣医師会長、日本獣医師会副会長、熊本大学化血薬研究所顧問、地場企業である熊本通運株式会社社長等にも就任している。

衆議院議員に初当選すると直ちに、農林委員、厚生委員に就任。自由党では農林対策特別委員会畜産部長として、戦後の農林・厚生行政に携わり、当時日本人人口9,000万人の食糧難に対応するなど、その功績は計り知れない。

一方、狂犬病予防法制定、獣医師法改正、家畜伝染病予防法改正、有畜農家創設維持法制定等は、原田雪松議員の卓越した才能と行動力なくして、完成はなかったといつてよからう。

衆議院議員の任期を終え、昭和27年(1952)の総選挙で再選を目差した。しかし、保守系候補者3人の乱立競合となり次点で惜敗した。続けて参議院全国区にも挑戦したが惜しくも落選、国会議員活動は1期で終わった。巷間の風評によると、狂犬病予防法の議員立法など国会活動に専念する余り、選挙区民に対するサービスが不行届きとなり、惜しむべき結末になったと語られている。

5. 狂犬病予防法の議員立法

原田雪松議員の心血を傾注した議員立法により狂犬病予防法は制定された。議員立法とは、議員が法律案を発議して提出する立法、またはそれによって成立した法律の俗称をいう。なお、立法府(内閣)が法律案を提出する立法、委員会が立案し委員長名で提出する委員会提出法律案による立法等もその一種である。このような議員立法を支援組織として内閣法制局が設置されている。⁶⁾

狂犬病は、ウィルスを病原体とする人と動物の共通感染症である。狂犬病に罹患した動物による人の咬傷は、初期の適切な処置を誤ると死に至る。その危険な狂犬病は日本においても大正時代には年間に1,000～3,000頭も発病したと報告されている。⁷⁾ 昭和初期には家畜伝染病予防法に基づく犬の予防接種により、幸い沈静化傾向が続いた。しかし、戦後再発し、原田雪松議員が狂犬病予防法に情熱を傾けた時期における狂犬病発生数は表1のようである。⁵⁾

特に昭和23年(1948)から29年(1954)に狂犬病発生数は増加している。因みに資料としては旧聞であるが、1997年の世界における狂犬病患者発生数を次表に示す。アジアにおける犬の罹患数は突出している。⁷⁾

表1 昭和20年代における犬と人の狂犬病発生数

年次	犬の発生数	人の発生数	時期	
昭和20	94	1	8月, 大東亜戦争敗戦	
21	24	1		
22	37	17		
23	141	45		
24	614	76		
25	867	54		7月, 狂犬病予防法の制定
26	319	12		
27	232	4		
28	176	3		
29	98	1		
30	23	0		
31	6	1		
32	0	0		
合計	2,631	215		

表2 地域別主要狂犬病ウイルス伝播動物種と年間狂犬病患者発生数

地域	主要狂犬病ウイルス伝播動物種	1997年狂犬病患者発生数
ヨーロッパ	キツネ, オオカミ	13例
北米	アライグマ, スカンク, キツネ, コウモリ	4例
中南米	イヌ, コウモリ	110例
アフリカ	イヌ, マングース, ジャツカル	200例
アジア	イヌ	33,000例

※WHO: World survey of rabies No.33 for year 1997

(<http://www.who.int/emc-documents/rabies/whocdscsgraph994c.html>) 提供

原田雪松議員による狂犬病予防法の議員立法は、当時急増した狂犬病発生数に対する獣医師としての強い使命感と、恩師梅野信吉に対する報恩の情を、日本獣医生命科学大学と日本医科大学の合同教育棟1階ラウンジに設えたレリーフしつらに読み取れる。すなわち、大正5年(1916)、梅野信吉・高橋良照両博士は有効性の顕著な犬用狂犬病ワクチンの製造に成功し、世界各国で高い評価を得た。それを顕彰したレリーフ(図1)である。



図1 狂犬病に関する業績

前述のように、狂犬病予防法が制定された昭和24年(1949)と昭和25年(1950)の日本における狂犬病発生数は多く、日本全国の犬に対するワクチンの全頭予防接種は急務であった。また、背景には日本における狂犬病発生数の増加を憂い、GHQ(連合国軍総司令部)の獣医課長ビーチウット博士の《昭和25年3月6日付：狂犬病予防対策について》と題した覚書も、原田雪松議員の背を強く押したと伝えられている。

原田雪松議員は一年生議員、地方行政に精通しているとはいえ、立法の専門家ではない。狂犬病予防法の所管は厚生省、予防の実務は農林省。縦割行政の狭間における苦悩は察して余りある。原田雪松議員は行政関係各省の担当官、日本獣医師会等多数の関係者と綿密な打ち合わせを繰り返し、おそらく法制局の訂正や注文も受けられたことと思う。第8回国会(衆議院)に議員立法として提案された。提案理由の説明における迸る情熱、迫りに満ち、理路整然とした論理は全議員を魅了し、納得させたと言語継がれている。まさに、異例のスピード審議であった。昭和25年7月28日衆議院を通過、同年7月31日参議院も通過して《狂犬病予防法》は成立し、夏の暑い日は終わった。

現行の《獣医畜産六法》を捲れば、1105頁に《狂犬病予防法・昭和25・8・26：法247、最終改正 平11、法160》として所載されている。昭和25・8・26は同法の公布日であろうか。

6. 会話なき邂逅^{めぐりあい}

著者の一人である私(池本)は、昭和25年当時、法学部に学ぶ勤労学生。科学警察研究所(所管・警察庁)で働いていた。業務は実験動物の飼育。研究所は千代田区三番町六番地に在り、実験用家兎の餌にする豆腐粕の仕入れに、同町内の豆腐屋に日参していた。その途中に《原田雪松邸》と《中村道三郎獣医科診療室》があった。この両者が獣医師で国会議員の政治家、一方、麻布大学中興の祖として尊敬され続けている、日本屈指の臨床獣医学者であるとは露も知らなかった。原田雪松邸の門前を御本人と思しき人物が和服を着流して散策しておられる姿を時折見掛けた。また、中村道三郎獣医科診療所は、科学警察研究所に程近い三番町ホテルの脇に建っていた。今は企業ビルに建て替わっている。シェパード種であろうか、診療を終えた大型犬を連れた外国の婦人を見送られる先生の姿を幾度か拝見した。中村道三郎先生は英語が達者で、麻布大学の教員や学生に語学の修得を強く勧められておられたと聞く。受診した大型西洋犬の飼い主は、近くに今も在る英国大使館近縁の御婦人と想像していた。

法学部を終えた私は、日本獣医畜産大学獣医学科に学士入学、3年・4年と僅か2年間の獣医学教育を経て獣医師免許を得た。修学年数だけは原田雪松議員に似ている。他にひとつ、その頃を追憶したい。研究所の裏道に建つ大妻女子大学界隈の高級住宅地に、獣医史学者として卓越した業績を残された勝山脩博士の御自宅があった。ある日、高等学校3年生の勝山さんから、進学を獣医学志望にしたいと相談を受けた。高校の成績は首席と知って東京農工大学獣医学科に受験を勧めた。当然乍ら合格し優れた成績で卒業、実業獣医師として活躍されたが、惜しまれながら病気で早世された。御冥福をお祈りする。

このような因縁ある御三方の御遺徳を偲びながら拙稿を纏めてみた。後書きとするには余りにも烏^{おこ}辭がましいがお許しを頂きたい。

引用文献

- 1) <http://www.eva.hi-ho.ne.jp/suruga/amakusahistory.htm>
- 2) 日本獣医生命科学大学同窓会員名簿 15(2014)
- 3) 児玉幸多編：日本史年表・地図，吉川弘文館28-35(2011)
- 4) 日本獣医畜産大学創立80周年記念誌，17-34(1961)
- 5) 四宮義和：狂犬病撲滅の立役者 原田雪松，大塚葉報，637. 6-14(2008)
- 6) 藤本英雄・金子宏・新堂孝司編：法律小辞典，124(1979)
- 7) 日本獣医師会：共通感染症ハンドブック，124-125(2004)